

神社祭時記

【十月・十一月】

一枚の紅葉かつ散る 静かさよ

高浜 虚子

十月・体育の日「神楽と雅楽の一般公開」が開催された。この日神楽殿を一杯に埋めた観衆を魅了した演目『海神』は、長年舞われる事無く、絶滅危惧種のような神楽である。今回この日のために神職達は、猛暑の頃より先輩に教えを請い、そして稽古に励んできた。



同月、地元中学校による職場体験学習が行われた。女子生徒五名が約一週間神社に通い、境内の清掃や作法等を学び、神社の歴史・神職の心得に耳を傾けた。巫女装束を着装し満面の笑みを浮かべる姿は初々しい。時を同じくして当社神職対象の祭式講習会が開かれ、生徒達も一緒に作法を学び、日頃の行動を見つめ直すきっかけになったようだった。

【二月・三月】

節分の 宵の小門を くさりけり

杉田 久女

前日に降った雪が山並みを白銀に変えた初午の二月二日「稲荷社祭」が執行された。宿坊の女将達は赤飯や油揚げ、メザシを神前に供え参拝し商売繁盛を祈る。翌三日、境内から大賑やかな声がひびく。「節分祭」で福豆を撒く年男と、それを拾う参拝者の声だ。この日は、神職と婦人部総出で対応に当たる。福豆や福銭を拾い、振る舞い酒を楽しむ参拝者の明るい声に鬼も近寄ることはできないだろう。

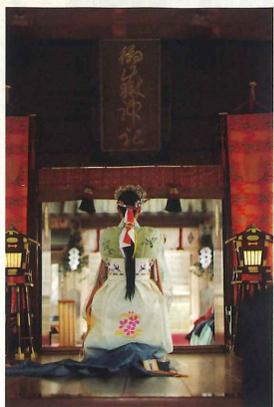


木々が目覚め始める三月八日「春季大祭（祈年祭）」が執行された。大神に春の訪れを感謝し、五穀豊穡を祈るが、修験の山でもある武州御嶽山に於いては、

【十一月・一月】

十一月八日「秋季大祭（新嘗祭）」が斎行され、秋の豊穡を奉告し、参列者は玉串に感謝の念をこめた。十一月二十三日「末社祭」

が斎行された。末社は境内に二十社あり、その中の『常磐堅磐社』は、全国にある『一宮』の御祭神が祀られており、全国を旅してお参りした気持ちになる社である。



二十五日には今年最後の「夜神楽」が開催され、多くの観覧者で賑わいを見せた。夜神楽は毎年六月から十一月の第四日曜日の夜に開催されている。深まる秋の中、山上では天空芸者ナイトやヴァイオリンの夕べなど様々なイベントが開催され、紅葉の色づきに華を添えた。



【十二月・二月】

冬を訪れを肌を感じ始めた十二月九日「御岳山トレイルラン」が開催された。千名を超すランナーが御岳山中を走り抜ける。ゴールである当社を目指して走る姿は、自然と向き合うひたむきさと、苦しさの中にも沸き上がる楽しさと達成感が伝わってきた。



年の瀬を迎えると各宿坊では青竹を立て、注連縄を張り年神様を迎える準備を始める。宿坊に張られた注連縄と青竹は清廉とし、凜とした冬の御岳山の風物詩となっている。当社に於いても、新年を迎える準備に追われる。本年は御奉納戴いた「大注連縄」を拝殿正面に据え、すばらしい新年を迎えることが出来た。

十二月三十一日夜半には、新たに設置した「灯籠」の柔らかな光が参道を照らす中、大勢の参拝者が訪れ、一月一日午前零時を迎えると、カウントダウンの報鼓と年明けの奉祝の音が響く中「新春



（提供：御岳ビジターセンター）

でんぼう 傳法

昨年夏、三名の方の傳法が終了しました。傳法とは、将来当社に奉仕するにあたり資質を養うために行う伝統行事です。ここで三名を代表し服部朋也君の感想と抱負を掲載いたします。



服部朋也 君



片柳樂至 君



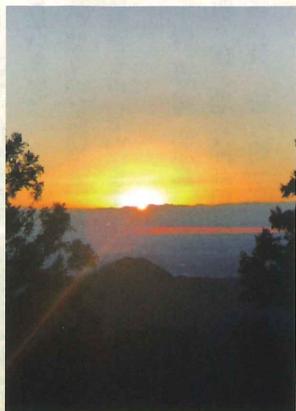
鈴木雄己 君

『先ずは一週間という長きに亘り、須崎宮司をはじめ、皆様お忙しい中お時間を割いて頂き有難うございました。作法や滝行については國學院で普遍的に学んだことを、ある程度活かすことが出来ましたが、お教え頂いた内容は、本番さながらの具体的なものであり、御嶽神社で奉仕する心構えが出来ました。また年の離れた高校生との共同生活も、二人がみるみる吸収し、成長していく様子を見て嬉しくもあり頼もしく思うと共に、負けていけないという気持ちももたらえました。今春より山中荘に入ります。山育ちではないこともあり、皆様にご迷惑をお掛けすることも多くあると思いますが、諸先輩方に見直し、聞き直し努めていきたいと思えます。宜しくお願いします。』

御岳山の行事

平成三十一年

- 一月 一日 元旦祭
- 三日 太占祭
- 二月 三日 大口真神社祭
- 初午 稲荷社祭
- 三月 八日 春季大祭（祈年祭）
- 二十二日 奉納俳句奉告祭
- 四月 下旬 産安社祭
- 五月 二十九日 奉納剣道大会・介山祭
- 七日 日の出祭（宵宮）
- 八日 日の出祭（神輿渡御）
- 十五日 男具那社祭
- 六月 十六日 大口真神社祭
- 二十二日 神楽と雅楽の一般公開
- 二十三日 修行体験講座（一泊）
- 三十日 夏越大祓
- 七月 十三日 レンゲンショウマまつり（九月十四日）
- 十三日 薪神楽
- 十五日 滝行体験講座
- 九月 七日 カンタンを聴く会
- 十四日 薪神楽
- 二十九日 大口真神社祭
- 流鏝馬祭
- 十月 二十八日 一日修行体験講座
- 体育の日 神楽と雅楽の一般公開
- 十九日 天空もみじまつり
- 二十四日（十一月二十三日）
- 十一月 八日 秋季大祭（新嘗祭）
- 二十三日 末社祭
- 十二月 八日 みたけ山トレイルラン
- 二十三日 天長祭
- 三十一日 大祓
- 六月・十一月 第四日曜日 夜神楽
- 毎月 八日 月次祭
- 毎日 日供祭



一番祈禱」が斎行される。日の出が近くなるにつれ境内は初日待つ人で一杯になる。清らかな光が差し来ると、一気に歓声が上がリ、清々しい一年の始まりを慶ぶ笑顔が境内に溢れた。江戸の頃のままの「振御籤」は、相変わらず長蛇の列で、籤の結果に皆「喜一憂一」していた。一月三日早朝「太占祭」が斎行された。太占祭は「牡鹿の肩甲骨」を齋火で炙り、骨に入ったひびの具合で本年の農作物の吉凶を占う秘祭である。この結果表は広前で頒布されている。農家の方はこの結果から、一年の天候を読めるといふ。また、ご神威を受けた骨は、細かく砕いて皆様のお守りとして奉製し頒布している。

